

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 特定非営利活動法人 神戸定住外国人支援センター

1. 事業の趣旨・目的

生活者のための外国人に対する日本語教育を実践する教室を開催するための指導者養成。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
4月27日	当センター 事務所	斎藤明子 高橋博子 宇野祐子 坂田稔 枝木真紀子 橋本尚登 金宣吉 奥優伽子	2011年度の日本語指導者養成の講座について検討。	生活者の視点にたった日本語教育を行える指導者を養成するために、事務局側が検討している講座の主旨説明とそれに対する意見を集約。
1月25日	当センター 事務所	斎藤明子 高橋博子 宇野祐子 坂田稔 枝木真紀子 橋本尚登 奥優伽子	2011年度の日本語指導者養成の講座についての報告。	講座が終わったの反省。来年度への意見。

【写真】

3. 養成講座の内容について

- (1) 講座名 「日本語指導者講座」
- (2) 開催場所 アスタくにつか4番館・新長田勤労市民センター・
当センター事務所内教室スペース
- (3) 学習目標 生活者のための日本語教育をどのように行えばいいか、責任感をもって
取り組む指導者となる
- (4) 使用した教材・リソース 講師レジメ「みんなの日本語Ⅰ」
- (5) 受講者の募集方法 チラシ・当センター発行メールニュース
- (6) 受講者の総数 68人
(出身・国籍別内訳 日本 66人 韓国 2人)
- (7) 開催時間数(回数) 20時間 (全 8回)
- (8) 参加対象者の要件
- (9) 講座内容

回	開催日時	時間数	受講者数	講座名／学習内容	講師
①	5月14日 13:30～15:30	2時間	17人	生活者としての外国人のための日本語教育とは／地域の日本語教室の目的は何か	酒井 滋子 元 兵庫県国際交流協会 日本語教育指導員
②	6月13日 18:00～20:00	2時間	10人	NPOと国際教室における日本語教育と教科学習支援のあり方／学齢期に來日した子どもの日本語教育	芝野 淳一 大阪大学人間科学研究科教育文化学研究室
③	6月25日 10:00～17:00	6時間	31人	とよた日本語学習支援システム—新しい地位の日本語教室の形／能力観習得観(従来の教育観と新しい習得ステップ)	北村 祐人 名古屋大学 とよた日本語学習支援システム・システムコーディネータ
④	8月27日 10:00～12:00	2時間	19人	新しいタイプの日本語教室のあり方の提案／「タスク積上げ型日本語教室」とは、実際のテキストを使っ ての体感)	太田 祥一 群馬県生活文化部国際課・課長補佐学

⑤	8月27日 13:00~15:00	2時間	19人	タスク積上げ型日本語教育の理論と実践／「タスク積上げ型日本語教室」とは、実際のテキストを使つての体感)	楊 涎延 群馬県立女子大学・非常勤講師 森 沙耶佳 (財)日本国際教育支援協会 専門員
⑥	9月10日 10:00~12:00	2時間	16人	日本語教育の概念・授業の流れ／日本語教育の現状考え方(文型 文法用語) 教え方(媒介語を使う 直接法) 文字の扱い	斎藤 明子 神戸YWCA学院・主任講師
⑦	9月17日 10:00~12:00	2時間	17人	文型積上げ型日本語教育／「みんなの日本語I」のテキストを使って(導入・練習・応用)	斎藤 明子 神戸YWCA学院・主任講師
⑧	9月24日 10:00~12:00	2時間	16人	学習者のレベルとニーズについて／学習者のレベル分けとニーズによるカリキュラム作成	斎藤 明子 神戸YWCA学院・主任講師



(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

別紙(アンケート集計)

② 実施主体からの研修内容結果評価

当地域では「みんなの日本語」テキストを使って学習していくことが主流になっており、支援者が文型積上げ方式の教授法からなかなか抜け出せない状況であった。今年度に「生活者としての外国人のため」の日本語学習を学ぶ側からの視点にたつて講座を組み立てられたことと、他地域の教授法を習得できる講座を取り入れられたことが、評価できると思う。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

今年度の日本語指導者養成で、文型積上げ式だけではない、日本語習得の教室運営ややり方の技術を学べたと思う。今後は生活者の視点に立って、短期間で習得できる日本語教育を実践していく計画である。生活に必要な日本語能力の次には、職業に就くためのビジネス会話であったり、敬語などの適切な使い方、読み書き能力の向上など、当センターがこれまでに蓄積してきた外国人支援を発展させていく予定である。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

日本語指導者養成を経て、日本語支援をボランティアで取り組んでもらう人達の研修の場として、また支援を行っている人同士の交流が行えるうえでも、ほぼ毎月 1 回研修会を行える体制がとれたことは評価できると思われる。

② 研修後の人材活用

日本語指導者養成を修了した人材は、当センターでの日本語支援ボランティアに登録してもらえるよう案内している。今年度は、地域のお他グループのボランティア支援者や、日本語教育能力養成講座受講中の方等、多くの方に参加してもらった。当センターのみならず地域の人材の育成に寄与できていると思う。

(12) 今後の課題

実際に多様な日本語教授法があるとしても、そこから自分の教え方に結び付けるのは難しいと思う。それもボランティアでの活動としてでしか取り組んでもらえないので、大きく期待できる成果が見込めるかどうか不明である。有償の日本語教師との連携がとれて、学習者が短期間で日本語習得ができる方法を今後も模索していきたい。